

31 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

事業名: ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業**実施主体: 国立国際医療研究センター 脳卒中センター、国際医療協力局****対象国: ベトナム社会主義共和国****対象医療技術等:** ①②脳卒中診療・看護・リハビリテーション・栄養に関する技術、組織マネジメント、チーム医療体制強化、標準手順書やガイドラインなどの制度整備の支援**事業の背景**

- ベトナムでは死亡原因の7割を非感染性疾患が占め、その第一位は脳卒中である。2015年からNCGMはバックマイ病院と連携し、脳卒中患者のチーム医療導入をすすめている。
- 昨年度は脳卒中患者登録・症例検討、脳卒中診療ガイドライン作成、高次機能障害の評価、リハビリ装具製作、嚥下食献立立案、脳卒中病態看護関連図作成等の支援を行ってきた。

事業の目的

- バックマイ病院等における脳卒中診療・リハビリ・栄養・看護の質の向上およびチーム医療体制の強化に寄与する。
- バックマイ病院が行う地域病院への技術移転を支援する。

1

「ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業」です。NCGMは脳卒中センターとして脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、栄養管理室、看護部 SCU と、国際医療協力局が本事業に関わり、対象国はベトナムです。

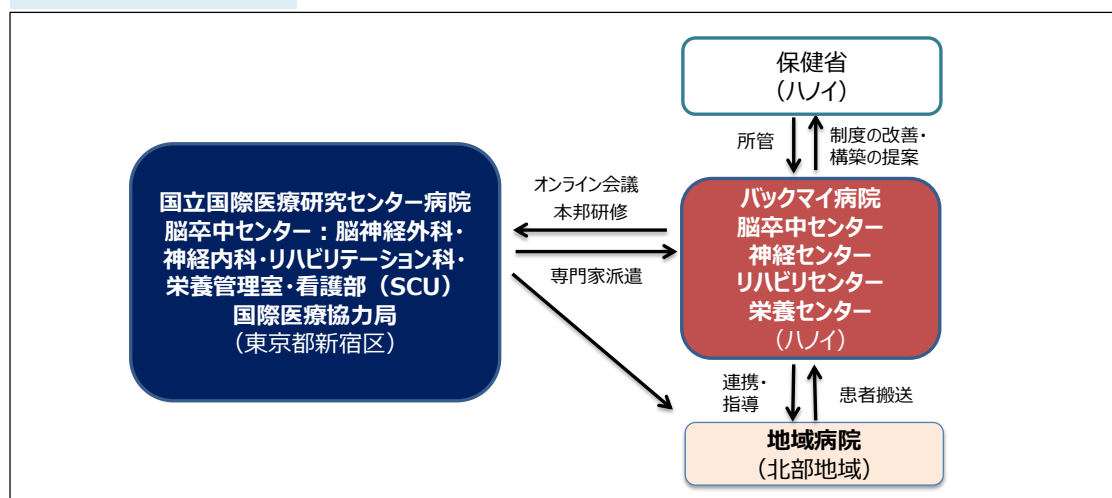
脳卒中患者への対応には多職種のチーム医療が効果的であることから、2015年からNCGMはハノイのバックマイ病院と連携し、脳卒中患者のチーム医療導入を進めています。

本事業の目的は、バックマイ病院等における脳卒中診療・リハビリ・栄養・看護の質の向上およびチーム医療体制の強化に寄与すること、バックマイ病院が行う地域病院への技術移転を支援することです。

31 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

実施体制



研修目標

ベトナムバックマイ病院において

- 脳卒中患者レジストレーションの運用向上および患者評価指標の分析が行われる。
- 心原性脳塞栓症が疑われる症例で病棟で早期に心房細動を捉える手法が確立される。
- 脳卒中リハビリテーションの評価・訓練技術の臨床導入が行われる。地方病院への研修が行われる。
- 脳卒中患者の栄養評価方法が確立する。治療食、嚥下調整食が導入される。
- 脳卒中患者看護研修でシミュレーション研修、病態整理関連図が運用される。
- 脳卒中看護テキストが発行される。

2

実施体制です。バックマイ病院側の体制は、脳卒中センター、神経センター、リハビリセンター、栄養センターです。バックマイ病院はトップリファラル病院であることから、地域病院への技術移転が期待されます。

本年度の主な研修目標は、脳卒中患者の症例分析、症例検討、脳卒中リハの評価と訓練技術の導入、栄養評価の導入、看護師へのシミュレーション研修、病態整理を含めた関連図作成などでした。

31 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

1年間の事業内容

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
【全体】	計画 確認				全体進捗 確認	ベトナム 専門家派遣 脳卒中学会	本邦研修			まとめ 来年度 計画確認
脳神経外科 神経内科	月例会議 症例協議 (NCGM発表)		月例会議 症例協議 (BMH発表)	月例会議 症例協議 (NCGM発表)	月例会議 症例協議 (BMH発表)	月例会議 症例協議 (NCGM発表) ベトナム 脳卒中学会 発表				
リハビリ テーション科		月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例会議 OT&PT オンライン研修 ベトナム地方 セミナー 講師	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議
栄養科		月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議	月例 会議
看護部 (SCU)	月例 会議		月例 会議	月例 会議	月例 会議	ベトナム 脳卒中学会 発表	月例 会議		月例 会議	

3

1年を通して各科がオンライン会議や研修、症例検討等を継続し、10月にNCGM 専門家 15名がバックマイ病院等を訪れ、現地で研修を実施したほか、ベトナム脳卒中学会で発表しました。11月にはバックマイ病院から14名の医師、看護師、理学療法士等を招いて研修を実施しました。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)



上は現地訪問した際の写真で、病院長からも本事業への感謝と期待が寄せられました。下は本邦研修の修了式の写真で、NCGM センター病院長、国際医療協力局長も出席しました。

脳神経外科/神経内科：R5年度の成果指標とその結果

	研修内容	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中患者レジストレーションの運用向上および患者評価指標の分析支援 心原性脳塞栓症が疑われる症例において、病棟より早期に心房細動を捉える手法確立を支援する。 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中患者レジストレーション <ul style="list-style-type: none"> 脳卒中センター医師5名、看護師5名が参加。 教育的な症例を用いた症例検討会に医師4名が参加。 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中患者レジストレーション： <ul style="list-style-type: none"> 脳卒中センタースタッフが患者フローを理解し、Door-to-punctureなどの指標が改善する。 脳卒中患者評価指標の分析結果が提示される。 医師と病棟看護師を含めたスタッフの50%以上がモニターでの心房細動（疑い）を捉えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> BMHはじめ地域病院で、脳卒中患者へより早く質の高い診断および治療が提供される。 脳卒中患者レジストレーションシステムが地域病院にも普及する。 心原性脳塞栓症に対して早期介入することで、ベトナムにおける疾病負荷の低減に貢献する。
実施後の結果	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中患者レジストレーションの運用向上および患者評価指標の分析支援 心原性脳塞栓症が疑われる症例において、病棟より早期に心房細動を捉える手法確立を支援する。 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中患者レジストレーション →BMHで症例登録は進んでいるものの、現状で具体的な分析計画（ニーズ）はなかったため実施せず。 教育的な症例を用いた症例検討会に医師4名が参加する。 →心原性脳塞栓症に限らず、脳卒中症例Web検討会を計5回実施（NCGM発表3回、BMH発表2回）。BMHの医師延20名が参加した。 →現地で症例コンサルテーションを実施した。 →本邦研修でリハビリテーション、医療機器の紹介を含めて実施。 →ベトナム脳卒中学会で日本の脳卒中診療体制を発表した。 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中患者レジストレーション： →BMHで症例登録は進んでいるものの、現状で具体的な分析計画（ニーズ）はなかったため実施せず。 医師と病棟看護師を含めたスタッフの50%以上がモニターでの心房細動（疑い）を捉えられる。 →計画通りには実施せず、症例検討会を実施。今後は症例検討会をベトナムでの資格更新の単位認定とすることを検討中である。 	<ul style="list-style-type: none"> BMHはじめ地域病院で、脳卒中患者へより早く質の高い診断および治療が提供される。 脳卒中患者レジストレーションシステムが地域病院にも普及する。 心原性脳塞栓症に対して早期介入することで、ベトナムにおける疾病負荷の低減に貢献する。

5

各科の2023（令和5）年度の成果指標と結果です。

脳神経外科/神経内科では、オンラインおよび現地研修、本邦研修で、症例検討やコンサルテーションを行い、具体的な治療プロトコールに関する必要な助言を行うことができました。今後、症例検討がベトナムでの資格更新の単位として認定されることが調整されています。

また、ベトナム脳卒中学会で、日本の脳卒中診療体制について講演を行いました。

リハビリテーション科：R5年度の成果指標とその結果

	研修内容	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	<ol style="list-style-type: none"> WEB会議、現地視察・研修、本邦研修 (PT/OT/ST 部門別活動) 研修会：脳卒中急性期リハに関する知識普及、技術移転、BMHスタッフによる運営 セミナー地方開催：地方へ知識・技術の普及、BMHスタッフによる運営 研究支援 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中リハの充実：評価・訓練技術向上(高次脳機能障害、失語症(WAB), スプリント, 嚥下障害診療)、専門チーム活動支援 (Assistive Technology) 3. BMH、周辺・地域病院の医師・看護師・PT/OT/ST等が参加、テキスト活用、資格更新単位付与 研究計画、データ収集・解析・発表 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中リハ評価・訓練技術の臨床導入実績 リハセンター専門チーム活動実績 嚥下障害診療実績 失語症診療充実 テキスト活用 BMH主催・単位付与研修会の定期開催 研究の実施・成果発表 	<ol style="list-style-type: none"> 習得した評価法・技術がBMHの標準手技として院内委員会で採用される 習得した評価法・技術普及による脳卒中診療の質向上 脳卒中臨床研究の質向上 嚥下障害診療の質の向上 習得した評価法・技術の保険収載、ベトナム全土への普及 →ベトナムにおける脳卒中診療の質の向上に寄与
実施後の結果	<ol style="list-style-type: none"> WEB会議、現地視察・研修、本邦研修 (PT/OT/ST 部門別活動) 研修会：脳卒中急性期リハに関する知識普及、技術移転、BMHスタッフによる運営 セミナー地方開催：地方へ知識・技術の普及、BMHスタッフによる運営 研究支援 	<ol style="list-style-type: none"> WEB会議：9回、現地視察・研修：10/24-28、本邦研修：11/29日-12/5 ・PT/OT/ST部門別活動：実施、日本製先端リハ医療機器紹介 ・脳卒中リハの充実：感覚障害、高次脳機能障害への対応、失語症評価(WAB), スプリント作製、嚥下障害診療 (VF) 研修会 ・脳卒中急性期リハに関する知識普及、技術移転：感覚障害、高次脳機能障害のオンライン研修会 セミナー地方開催 ・地方へ知識・技術の普及、BMHスタッフによる運営：バクニン省、ビンディン省で開催、地域病院の医師・看護師・PT/OT/ST等が参加、テキスト活用、資格更新単位付与 研究支援：研究計画協議、研究計画書作成、物品準備 	<ol style="list-style-type: none"> 脳卒中リハ評価・訓練技術の臨床導入実績：高次脳機能障害評価、スプリント作製、失語症評価 (WAB)、嚥下造影 (VF) が導入された。 リハセンター専門チーム活動実績：脳卒中/神経内科/栄養/放射線各部門と連携した活動を実施した。BMH脳卒中センターで嚥下機能改善のための感覚刺激療法の機器1台が購入された。 嚥下障害診療実績：VFが定期実施されるようになった。 失語症診療充実：WABを用いた評価が開始され、評価・訓練方法を整理した。 過去に製作した脳卒中リハテキスト活用：研修会で使用された。 BMH主催・単位付与研修会の定期開催：地方2都市で開催され、合計約60名に単位が付与された。 研究支援：BMH倫理委員会で承認された。データ収集が開始された。 	<ol style="list-style-type: none"> 習得した評価法・技術がBMHの標準手技として院内委員会で採用される 習得した評価法・技術普及による脳卒中診療の質向上 脳卒中臨床研究の質向上 嚥下障害診療の質の向上 習得した評価法・技術の保険収載、ベトナム全土への普及 →ベトナムにおける脳卒中診療の質の向上に寄与

6

リハビリテーション部門では、WEB 会議定期開催に加え、現地訪問、本邦研修が再開され、表に示すように効果的な活動ができました。今年度のテーマは、感覚障害へのアプローチ、高次脳機能障害への対応、嚥下障害診療、失語症診療、研究支援などでしたが、これまでの活動の成果であるスプリント作製や BMH スタッフ運営による地方都市でのセミナー開催も支援しました。また、本邦研修で紹介した嚥下機能改善のための感覚刺激療法の機器 1 台が、バックマイ病院脳卒中センターから購入につながりました。

栄養科：R5年度の成果指標とその結果

	研修内容	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	<p>WEB会議、現地視察・研修、本邦研修で以下を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 嚥下食/経管栄養ガイドライン作成支援 嚥下食の献立・調理について周辺・地域病院への普及：BMH主催の研修支援 嚥下食の効果評価支援 	<ol style="list-style-type: none"> 嚥下食/経管栄養適応ガイドライン作成において、日本人の技術的助言が反映される 嚥下食、低タンパク食の献立・調理方法に日本人の技術的助言が反映される 嚥下食の効果評価の方法が作成される。 	<ol style="list-style-type: none"> 嚥下食/経管栄養ガイドラインが作成される。ガイドライン分類に沿った食事基準が作成される。 嚥下食、低タンパク食の献立・調理方法の教材が完成する。 嚥下食の効果評価が実施され、結果が発表される。 	<p>嚥下食/経管栄養ガイドラインがBMHはじめ地域病院へ普及する。</p>
実施後の結果	<p>WEB会議、現地視察・研修、本邦研修で以下を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 嚥下食・高カロリーゼリー食/経管栄養ガイドライン作成支援 嚥下食・高カロリーゼリー食の献立・調理について周辺・地域病院への普及：BMH主催の研修支援 嚥下食・高カロリーゼリー食の効果評価支援 手洗いチェッカーによる衛生管理 	<ol style="list-style-type: none"> 嚥下食・高カロリーゼリー食/経管栄養適応ガイドライン作成において、日本人の技術的助言が反映される→達成 嚥下食・高カロリーゼリー食の献立・調理方法に日本人の技術的助言が反映される→達成 嚥下食・高カロリーゼリー食の効果評価の方法が作成される。→継続支援 手洗いチェッカーによる衛生管理→本邦研修で運用含め紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-嚥下食・高カロリーゼリー食/経管栄養ガイドラインが作成される。ガイドライン分類に沿った食事基準が作成される。→ガイドラインは作成中 2-嚥下食・高カロリーゼリー食の献立・調理方法の教材が完成する。→献立・調理方法は確立し、教材としてビデオが完成した。 3-嚥下食・高カロリーゼリー食の効果評価が実施され、結果が発表される。→実施中であり継続支援する。 4-手洗いチェッカーによる衛生管理がスタッフに浸透する。→BMHで運用が開始された。 	<p>嚥下食・高カロリーゼリー食/経管栄養ガイドラインがBMHはじめ地域病院へ普及する。</p>

栄養部門では、脳卒中患者で嚥下障害がある患者用に、嚥下食・高カロリーゼリー食の運用がバックマイ病院で開始され、調理方法の家族指導用のビデオも作成されました。

看護部 (SCU) : R5年度の成果指標とその結果

	研修内容	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	1. 看護師教育計画作成支援 2. 脳卒中ケアブックの作成支援	1. 看護師教育計画作成支援 ・脳卒中ケア看護師教育計画（新人看護師以外）が修正される ・シミュレーション研修（2事例以上）を含めた教育内容が見直される ・SAHの病態生理と看護を含む関連図が指導の下に作成される 2. 脳卒中ケアブック作成で日本人の技術助言が反映される	1. 看護師教育計画作成支援 ・脳卒中ケア看護師教育計画（修正版）が完成する ・シミュレーション研修が院内教育に含まれる ・SAHの病態生理と看護を含む関連図がBMH主体で作成される 2. 日本人のコメントが反映された脳卒中ケアブックが完成する	1. 脳卒中ケア新人看護師教育年間計画が、標準的な教育計画として他病院でも採用される。 2. 脳卒中ケアブックがベトナム国内の標準的な教材として活用される。 3. 完成した脳卒中ケアブックを用いて看護師自らが自己学習を行うようになる。
実施後の結果	1. 看護師教育計画作成支援 2. 脳卒中ケアブックの作成支援	1-看護師教育計画作成支援 ・脳卒中ケア看護師教育計画（新人看護師以外）が修正される →達成。下記活動を基に計画に反映された。 ・シミュレーション研修（2事例以上）を含めた教育内容が見直される →一部達成。現地で1事例を2回実施し、脳卒中センター、リハビリ病棟から約40名が参加した。(1)患者の変化に気づき行動できる(2)症状の原因を考えられる(3)BMH主体で今後の計画・実施ができる、を目標に実施し、(1)(2)は達成、(3)は未達成だった。 →ベトナム脳卒中学会でシミュレーション研修について発表した。 ・(SAHの)病態生理と看護を含む関連図が指導の下に作成される。 →達成。作成した関連図を基に継続して、WEB会議で意見交換していく。 2-脳卒中ケアブック作成で日本人の技術助言が反映される。 →達成。Web会議で助言を行った。	1-看護師教育計画作成支援 ・脳卒中ケア看護師教育計画（修正版）が完成する →達成。計画に基づき運用されている。今後も随時更新される予定。 ・シミュレーション研修が院内教育に含まれる →未達成。BMH主体の計画・実施までは至らなかったため、継続支援予定。 ・(SAHの)病態生理と看護を含む関連図がBMH主体で作成される →達成。BMH主体で研修が行われ、他症例の関連図も作成されるようになった。 2-日本人のコメントが反映された脳卒中ケアブックが完成する →概ね達成。人工呼吸器の項目以外は完成している。今後活用方法も含め継続支援予定。	1. 脳卒中ケア新人看護師教育年間計画が、標準的な教育計画として他病院でも採用される。 2. 脳卒中ケアブックがベトナム国内の標準的な教材として活用される。 3. 完成した脳卒中ケアブックを用いて看護師自らが自己学習を行うようになる。

看護部 SCU では、昨年度に作成を支援したバックマイ病院での脳卒中ケア新人看護師教育年間計画に沿って研修が実施されました。

本年度は、新たに脳卒中患者の状態変化に対応するためのシミュレーション研修の導入を支援しました。病態整理を含めた関連図の作成は、BMH が主体的に研修で実施されるようになりました。

そのほか、ベトナム脳卒中学会で、シミュレーション研修について発表を行いました。

R5年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
 - ベトナム脳卒中診断と治療テキストの発行準備中である。
- 事業で紹介・導入し、対象国の調達につながった医療機器の数
 - BMH脳卒中センターで嚥下機能改善のための感覚刺激療法の機器1台が購入された。

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）
 - 日本で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：14名
 - 対象国で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：255名
 - 研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：269名
 - 過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数：10名

9

医療技術における事業インパクトとして、昨年度に引き続き、バックマイ病院が中心となって作成しているベトナム脳卒中診断と治療テキストを発行準備中です。

医療機器については、本邦研修で紹介した嚥下機能改善のための感覚刺激療法の機器1台が、バックマイ病院の脳卒中センターより購入されました。小さな成果ですが、今後の同様に機器の紹介による展開が期待できます。

31 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

これまでの成果 脳神経外科・神経内科

- (R2～) 脳卒中セミナーが保健省から医療従事者の資格継続単位として認定。
- (R2～) 脳卒中診療の標準的指標の、血栓溶解療法実施率、血管内治療実施率、Door to Puncture time (病院到着から治療開始時間) のデータ収集を開始した。
- (R4) 世界脳卒中学会で、BMHの脳卒中患者レジストリーに関する活動が表彰された。
- (R4、R5) ハノイ脳卒中国際学会で、脳血管治療、脳卒中医療体制について発表した。
- (R4) BMH・ハノイ医科大学の作成を支援したベトナム脳卒中診療テキストが発行された。
- (R4～) 定期的にWebでBMHと脳卒中症例検討会を実施 (BMH, NCGMが交互に発表)。現地研修、本邦研修でも臨床で直接症例検討、コンサルテーションを行っている。



今後の課題

- 脳卒中患者レジストレーションのデータの活用 (分析) が明確化されず、Door-to-puncture などの指標改善を明確に示すまでには至っていない。レジストレーションの運用向上、脳卒中患者評価指標同定、データ分析について、成果が示せるよう支援を継続する。
- 症例検討会がベトナムでの資格更新の単位認定となるよう調整する。

10

ここからはこれまでの成果を本事業の NCGM 側の部門ごとに発表いたします。

脳神経外科・神経内科としては、2020 (令和 2) 年度からは、脳卒中セミナーがベトナム保健省より医療従事者の資格継続単位として認定され、脳卒中診療の標準的指標のデータ収集が開始されています。

2022 (令和 4) 年度には、作成を支援したベトナム脳卒中診療テキストが現地で発行されています。

昨年度、今年度とオンラインと対面により症例検討会を実施し、臨床でのコンサルテーションも含めて、バックマイ病院での診療の質向上に寄与しています。双方の国の脳卒中診療についての現状を知る有用な機会でもあり、良い点悪い点を指摘しあい、診療レベルを高めていきたいと思えます。

今後は、BMH の脳卒中レジストレーションの運用向上、脳卒中患者評価指標の同定、データ分析で成果が示せるよう支援を継続します。

これまでの成果 リハビリテーション科

- ① BMH脳卒中センター・リハビリテーションセンターにおける脳卒中リハビリテーションの充実：多職種連携、早期離床、急性期リハビリ
- ② 嚥下障害診療の充実：嚥下スクリーニング、嚥下造影検査、嚥下調整食
- ③ 失語症診療の充実：WAB、評価・訓練方法の整理
- ④ BMHリハビリテーションセンター主催、BMH研修センター協力の下に脳卒中早期リハビリテーション研修会開催：資格更新単位付与、継続開催、複数の地方都市開催
- ⑤ BMHリハビリテーションセンター・NCGMリハビリテーション科合同オンラインセミナー開催：BMH、地域病院への知識・技術の普及、高次脳機能障害、感覚障害
- ⑥ スプリント作製の充実：技術支援、資料作成、臨床実績蓄積、双方向性オンラインハンズオンセミナーの成果報告論文発表（国際医療協力局・リハビリテーション科）
- ⑦ 過去に本事業で製作した脳卒中早期リハテキストの活用：研修会のテキストとして使用中
- ⑧ 研究支援：嚥下障害診療に関する研究

今後の課題

- ① 新たな国際医療協力手法の構築：相互往来とオンラインの活用
- ② 活動成果の継続的発展
- ③ 越国専門家団体（学会・協会）を見据えた関係づくり
- ④ 社会制度：医療制度、保険制度、資格制度
- ⑤ 研究の遂行および学会発表・論文投稿までの技術支援

11

リハビリテーション部門の成果として、BMH 脳卒中センター・リハビリテーションセンターで、脳卒中リハビリテーションの充実が図られました。これには多職種連携、早期離床、急性期リハビリテーションの実施が含まれます。嚥下障害診療の充実にも取り組み、嚥下スクリーニング、嚥下造影検査、嚥下調整食の提供を行いました。失語症診療の充実に向けて、WAB (Western Aphasia Battery) を用いた評価や、訓練方法の整理が進められています。

BMH リハビリテーションセンターでは、脳卒中早期リハビリテーション研修会を主催し、資格更新単位の付与、継続開催、複数の地方都市での開催を実現しています。また、オンラインセミナーを開催し、BMH や地域病院への知識・技術の普及、高次脳機能障害や感覚障害についての情報を提供しています。スプリント作製における充実も図られており、技術支援、資料作成、臨床実績の蓄積が行われています。嚥下障害診療に関する研究へのアドバイスも実施しています。なお、研究実施のための技術研修を通じて、経管栄養チューブやコネクターなどの日本製品の調達に繋がる可能性が示唆されました。

今後の課題としては、新たな国際医療協力手法の構築、活動成果の継続的発展、越国専門家団体（学会・協会）を見据えた関係づくり、社会制度に関する医療制度、保険制度、資格制度の整備、研究の遂行および学会発表・論文投稿までの技術支援などが挙げられます。

31 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業

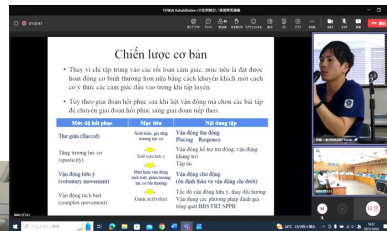
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

リハビリテーション部門

1) オンライン研修



BMH



高次脳機能障害(水口OT主任)

感覚障害への
アプローチ
(松崎PT、
山本PT士長)

2) 現地訪問 視察・指導



感覚障害

山本PT士長による技術指導



スプリント

水口OT主任による技術指導



失語症



嚥下造影検査

月永ST主任による技術指導

12

リハビリテーション部門の写真の紹介です。

感覚障害へのアプローチと高次脳機能障害をテーマとしてオンライン研修を開催しました。現地訪問では、オンライン研修の成果を確認し、山本 PT 士長、水口 OT 主任、月永 ST 主任による技術指導を行いました。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

3)本邦研修



SCU、リハ室見学



国立障害者リハビリテーションセンター見学

総合東京病院見学
TMS治療

スプリント作製研修



高次脳機能障害研修



藤谷科長による講義



嚥下造影検査研修



失語症研修



日本製先端リハ医療機器紹介

13

本邦研修では、NCGMでの脳卒中急性期リハビリテーションの実際の場面を見学するだけでなく、PT、OT、ST各部門別の研修も行いました。

また、国立障害者リハビリテーションセンターでは、障害者スポーツ、自動車運転、研究所などNCGMでは研修できない内容も視察し、総合東京病院ではTMS治療を研修しました。そして、NCGMリハビリ科藤谷科長によるリハ・栄養・看護研修生への合同レクチャーも実施しました。

さらに、日本製先端リハ医療機器を紹介するセッションでは、各企業担当者の説明だけでなく、藤谷科長が臨床的意義や効果も含めた説明を加え、研修生の理解を深める事ができました。

これまでの成果 栄養管理室

- ① BMHで嚥下食・高カロリーゼリー食/経管栄養ガイドラインを作成中。
- ② BMHで嚥下食・高カロリーゼリー食の献立・調理方法が確立し、教材の指導用ビデオが完成した。
- ③ BMHで嚥下食・高カロリーゼリー食の効果評価を実施中。
- ④ 手洗いチェッカーによる衛生管理がBMHで運用が開始された。

既存の献立を活用したとろみ剤使用嚥下食・ゼリー食の作成



東海大学医学部付属病院研修：嚥下食試食、最新の調理機器視察



現地で流通している栄養補助食品及び増粘剤を使った付加食の検討・試作



嚥下食の家族指導ビデオ制作



栄養管理室の役割・食事提供の現状について情報交換



日本の物性調整剤の紹介



手洗いチェッカーのBMHへの導入



今後の課題

- ① 活動成果の継続的発展
- ② 研究・学会発表・論文発表
- ③ 社会制度：医療制度、保険制度
- ④ レシピの普及：レシピ本、ビデオ作成

14

栄養管理室の成果として、これまでバックマイ病院で嚥下食・高カロリーゼリー食/経管栄養ガイドラインの作成を支援しており、今後発行される予定です。嚥下食・高カロリーゼリー食の献立・調理方法が確立しバックマイ病院で運用が開始され、教材の指導用ビデオも完成しています。また、バックマイ病院栄養センターが実施している嚥下食・高カロリーゼリー食の効果評価の研究へ助言を行っています。そのほか、手洗いチェッカーによる衛生管理がBMHで運用が開始され、他病院での導入も期待されます。

今後の課題としては、活動成果の継続的発展、学会・論文発表、社会制度への反映、レシピの普及が挙げられます。

31 ベトナム北部における脳卒中センターのチーム医療体制および地域連携強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

これまでの成果 看護部 (SCU)

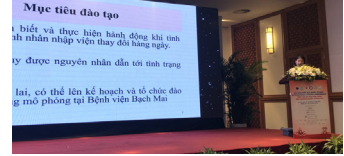
BMH



訪越～シミュレーション研修～



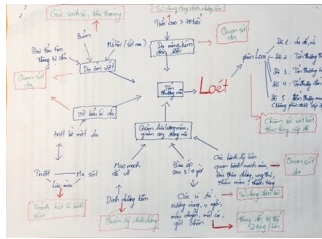
学会発表
「シミュレーション教育」



脳卒中看護研修計画の作成

Tháng 1	Tháng 2	Tháng 3	Tháng 4	Tháng 5	Tháng 6	Tháng 7	Tháng 8	Tháng 9	Tháng 10	Tháng 11	Tháng 12
1. Đánh giá nhu cầu đào tạo	2. Xây dựng chương trình	3. Tuyển chọn giảng viên	4. Tuyển chọn học viên	5. Triển khai khóa học	6. Theo dõi quá trình học tập	7. Đánh giá kết quả học tập	8. Tổng kết khóa học	9. Đánh giá hiệu quả đào tạo	10. Cập nhật chương trình	11. Triển khai khóa học tiếp theo	12. Báo cáo kết quả

病態関連図の作成支援



脳卒中ケアブックの作成支援

資料作成の説明

- 資料の趣旨：脳卒中看護
- 作成部門：脳卒中センター
- 編集者：看護長 Mai Doi Ten 脳卒中センター長
- 作成期間：2022年7月～2022年12月

資料内容

- 資料の目的：本資料は看護師養成校を卒業した看護師又は養成校で勉強している看護学生のために作成される。資料は病態生理、看護ケア、患者及び患者家族への適切な看護実践や患者看護に関して多岐にわたる情報を提供する。
- 資料の一般紹介
 - 脳卒中患者看護の資料は22課あり、下記の内容を含む。
 - 脳解剖、生理と病態生理
 - 脳卒中発症の早期発見及び最初の兆候
 - 脳卒中の診断
 - 脳卒中患者看護
 - 脳卒中に備える合併症の予防

NCGM



～本邦研修～



看護部門では、オンラインミーティングを通して、昨年度作成した脳卒中看護研修計画の実施状況を確認しました。さらに、自己学習を深めるために、昨年度より継続して行っている患者アセスメントのための病態関連図で、くも膜下出血と褥瘡について作成を促しました。当初は、病態生理が含まれておらず、看護ケアに結びつけられていなかったため、追加記載するようアドバイスしました。

また、看護師養成校を卒業した看護師又は養成校で勉強している看護学生を対象とした、病態生理、看護ケア、患者及び患者家族への退院時指導など、脳卒中患者看護に関するケアブックを作成している最中に、資料を提供し、支援しました。

訪越では、脳卒中患者の状態変化に対応するためのシミュレーション研修を開催し、脳卒中看護に関わる30名程度のスタッフが参加してくれました。

本邦研修では、日本での看護の実際を見てもらうとともに、教育体制や病棟でのリハビリについても見学をしました。

これまでの成果 看護部 (SCU)

学会発表

今後の課題

- ①脳卒中ケア看護師教育計画の修正と実践
 - ・教育計画の進捗状況確認
 - ・人工呼吸器の項目の支援を行う
- ②病態整理に基づいた看護の実践
 - ・関連図の作成が看護にどのように生かされているのか確認する
- ③シミュレーション教育の企画と実践
 - ・企画内容、実践方法を確認し、実際にどのように教育に取り組まれているか確認、支援を行う

16

脳卒中学会では、シミュレーション研修の開催方法や期待される効果、実施した結果を発表しました。

今後の課題としては、3点挙げられます。①脳卒中ケア看護師教育計画の修正と実践については、教育計画の進捗状況確認と人工呼吸器関連の項目への支援、②病態整理に基づいた看護の実践については、関連図作成が看護実践にどのように活かされているかを確認、改善すること、③シミュレーション教育の企画と実践については、企画内容、実践方法を確認し、実際にどのように教育に取り組まれているかを確認、支援することを行っていく予定です。

将来の事業計画

- **事業の期待されるインパクト**
 - BMHでの脳卒中診療、リハビリテーション、栄養、および看護の質を向上させることにより、ベトナムにおける脳卒中による疾病負荷の軽減に貢献。
 - 効果的なチーム医療体制の構築を通じて、総合的な脳卒中ケアの向上を目指す。

- **今後の事業計画/方向性**
 - 9年間の実績とBMHとの強固な信頼関係を基に、オンライン、国内、および現地での研修を通じた技術移転を継続する。
 - BMHだけでなく、地方病院への技術移転、国の標準ガイドラインへの組み込み、保険適用を視野に入れた支援を展開。
 - R5年度に成功した日本の医療機器の紹介と導入支援を引き続き行い、医療機器企業と研修員が対面する機会を設け、医療機器の展開に貢献する。

17

最後に、今後の事業計画について説明します。

事業全体の将来の事業の期待されるインパクトは、BMHでの脳卒中診療、リハビリテーション、栄養、および看護の質を向上させることです。これにより、ベトナムにおける脳卒中による疾病負荷を軽減し、国民の生活質を高めることに貢献します。また、効果的なチーム医療体制の構築を通じて、総合的な脳卒中ケアの質を向上させることが私たちの目指すところです。このアプローチにより、患者さん一人ひとりに最適な治療とケアを提供できるようになります。

今後の事業計画と方向性としては、9年間の事業実績とBMHとの間に築かれた強固な信頼関係を基に、さらなる成果を目指します。オンライン、国内、および現地での研修を通じた技術移転を継続し、BMHだけでなく地方病院への技術移転も推進します。また、国の標準ガイドラインへの組み込みや保険適用を視野に入れた支援も行い、脳卒中ケアの国内標準を高めていきます。

令和5年度には、日本の医療機器の紹介と導入支援が成功しました。この成功を踏まえ、今後も医療機器企業と研修員が対面する機会を設け、日本の医療機器の展開に貢献することで、ベトナムの医療水準の向上に寄与します。私たちの事業は、単に技術や知識の移転に留まらず、医療機器の導入を通じて最新の治療法やケアが現場で実践されることを目指しています。